

平成29年度高知女子大学看護学会公開講座報告

「やってみてわかる！ 分析方法」

平成29年の公開講座は、「やってみてわかる！ 分析方法」（高知県立大学共催）をテーマに、平成29年9月23日（土）に「看護の質的研究」第1回と第2回、平成29年9月30日（土）に「看護の量的研究」第3回と第4回を、高知県立大学池キャンパスにて開催し、看護師や助産師、看護教員、学生が参加してくださいました。

第1回「看護の質的研究：インタビューガイドの作成とインタビューの実際」は、講師 高谷恭子先生（高知県立大学講師）で開催し、参加者は21名でした。看護の質的研究でのテーマの選定に始まり、インタビューガイドを用いたデータ収集、具体的なインタビューの進め方についてご講義いただきました。後半は、参加者間でインタビューガイドを作成し、インタビューに挑戦するという演習も行いました。参加者からは「これからインタビューガイドを作成していく段階だったのでとてもタイミングよく聞くことができよかったです」「実際にインタビューを実践するなどわかりやすかった」などの感想をいただきました。



第2回「看護の質的研究：インタビューデータの分析」は、講師 池添志乃先生（高知県立大学教授）で開催し、22名の参加がありました。質的研究でのデータへの向き合い方、語りの一つひとつに対して何度もデータに戻りながらその意味を探求し、ラベル付けをしていく方法について学んだ後、インタビューデータを用いて、語りの意味を検討しコード化を行う演習に取り組みました。参加者からは「語りを大切にして、分析をすすめていくことの重要性を学ぶことができました」「実際のデータを用いて自分で考えた後に例を示していただき、わかりやすかったです」などの感想が寄せられました。



第3回「看護の量的研究：質問紙の作成とデータ分析の入口」は、講師 内川洋子先生（高知県立大学准教授）で開催し、参加者は10名でした。看護の量的研究を行うための統計的な分析の基礎について講義をしていただきました。講義の中では、内川先生が行われた研究を例に挙げながら、質問紙の作成での工夫や留意点など

具体的な説明がされました。参加者からは、「テーマを選定するときは研究の意義や何に疑問をもって何を明らかにしたいかを明確にしておかなければ、質問紙の作成内容にも一貫性がなくなることを理解できました」「ポイントを再確認することができ自施設に戻って共有したいと思います」などの感想が寄せられました。



第4回「看護の量的研究：量的データ分析の進め方の実際」は、講師 井上正隆先生（高知県立大学講師）で開催し、参加者は10名でした。量的研究におけるデータ収集や検定法の選び方、分析結果の読み取り方など、随所に演習を取り入れながらご講義くださいました。参加者の研究を行う中での疑問についても丁寧に助言をいただき、時には笑いも起こるなど楽しく学ぶこ

とができました。参加者からは、「具体的で詳細な説明で大変理解しやすく学べました」「楽しく参加できました」「もう少し細かい内容（分析方法など）も知りたいです」などの感想をいただきました。



平成29年度の4回の公開講座は例年より参加者が少なくなりましたが、その分少人数で学べて分かりやすかったとのご意見もありました。参加者の6割ほどが自施設で看護研究に取り組んでいる中での参加であり、1日を通しての参加者も疲れも見せず熱心に演習に取り組まれていました。看護研究に関する学習ニーズは高く、アンケートで寄せられたご意見やご要望を参考に、次年度の企画を検討していきたいと考えております。